豚 肉 情 勢

3月13日 更新　　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 1月の全国豚と畜頭数は、1,414千頭と前年を上回った(前年比102.2%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道98.6%、東北101.7%、関東103.7%、北陸甲信越99.0%、東海101.6%、近畿110.9%、中四国100.6%、九州・沖縄102.5% ○ 2月の全国と畜頭数は、1,345千頭(速報値2月29日まで集計、前年比102.6%)と前年を上回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年と同様で、1日当たりの平均と畜頭数は70,789頭(前年実績:69,027頭/日、前年差1,762頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;2月21日付け)によると、3月;1,437千頭(前年比98%)、4月;1,409千頭(同106%)、5月;1,330千頭(同97%)、 6月:1,307千頭(同98%)、7月:1,297千頭(同104%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約101%と前年を上回る見込み。
	2.輸入	○ 1月の輸入通関実績は、豚肉全体で72.1千ﾄﾝ(前年比96.2%、前月比106.4%)と前年を下回った。 内訳は、チルドが34.7千ﾄﾝ(前年比100.3%、前月比112.3%)、フローズンは37.4千ﾄﾝ(同92.8%、同101.5%)となった。 国別でみると、チルドではカナダ、メキシコが増加し、フローズンでは米国、チリが増加し、デンマーク、カナダが減少した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド　　;カナダ16.4千ﾄﾝ(前年比103.2%)、米国15.1千ﾄﾝ(同95.9%)、メキシコ3.2千ﾄﾝ(同108.4%) フローズン ;スペイン12.1千ﾄﾝ(前年比93.6%)、メキシコ5.0千ﾄﾝ(同91.2%)、米国4.0千ﾄﾝ(同141.0%)、デンマーク3.4千ﾄﾝ(同67.1%)、カナダ3.1千ﾄﾝ(同69.1%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(2月27日公表)によると、2月の輸入量:68.3千ﾄﾝ(前年比95.9%)と下回り、3月の輸入量:66.6千ﾄﾝ(同96.5%)と下回ると見込まれる。 チルドは、2月は前年のカナダ産の輸入量が入船遅れの影響で少なかったことから、前年を上回ると見込まれ、3月は為替の影響に加え、北米産の現地相場高から前年を下回ると見込まれる。 フローズンは、2月は紅海周辺の情勢悪化により物流の混乱等が生じ、欧州産の輸入量が減少することから、前年を下回ると見込まれる。3月は北米産およびその他の国からの輸入量が増加することから、上回ると見込まれる。 令和6年 2月:合計68.3千ﾄﾝ(前年比95.9%)、チルド31.3千ﾄﾝ(同101.3%)、フローズン37.0千ﾄﾝ(同91.7%) 令和6年 3月:合計66.6千ﾄﾝ(前年比96.5%)、チルド31.9千ﾄﾝ(同88.6%)、フローズン34.7千ﾄﾝ(同105.1%) 直近3か月(1月～3月)平均:合計68.5千ﾄﾝ(前年比95.5%)、チルド32.5千ﾄﾝ(同96.2%)、フローズン35.9千ﾄﾝ(同94.8%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 1月概況	○ 総務省発表の1月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,823g(前年比97.4%)、支出金額が2,866円(同98.0%)となり、 購入量、金額ともに前年を下回った。(※2019年度比:購入量 97.4%、金額 110.6%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の1月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,253.8億円(前年比100.0%、既存店ベース99.3%)と前年並みとなった。 精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉や鶏肉に需要がシフトする傾向が続いている。前年の鳥インフルエンザからの反動もあり、相場が安定している鶏肉が最も好調に推移した。 牛肉は年始の焼肉、すき焼き用は、動きが良かったが、それ以外は不振となった。豚肉も国産、輸入ともに高値で伸び悩んだ。ハム・ソーセージの加工肉は引き続き動きが鈍い。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した1月販売概況によると、畜産品の売上は959.7億円(店舗調整後で前年比99.9%)となり、前年並みとなった。 鶏肉の動きは良かったが、牛肉、豚肉の動きは鈍かった。鶏卵は良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。
	2月概況	○ 3連休が2度あり、連休前は手当が集中したことで需給が引き締まった。さらに、関東地区では降雪の影響から出荷に混乱が生じたことで需給が引き締まった。
	3.加工肉仕向量	○ 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表の1月の豚肉加工品仕向量は24.5千ﾄﾝ(前年比87.1%)と、加工品の値上げによる販売不振は続き、前年を下回った。 内訳は、国産原料4.7千ﾄﾝ(前年比89.5%)・輸入原料19.8千ﾄﾝ(同86.6%)となった。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは9.0千ﾄﾝ(前年比99.4%)と、前年を下回った。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(2月27日公表)によると、1月末の推定期末在庫量は194.0千ﾄﾝ(前年比93.6%、前月比101.3%)となり、前年を下回った。 内訳は、輸入品;173.2千ﾄﾝ(前年比91.8%、前月比101.8%)と前年を下回り、国産品;20.8千ﾄﾝ(同112.4%、同97.2%)と前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、2月は191.5千ﾄﾝ(同91.6%)、3月は184.0千ﾄﾝ(同87.7%)と前年を下回って推移するものと見られる。
枝肉相場	1.R6年2月速報値	○ 2月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;2月29日時点)は、594円/kg(前年比101.0%)と前年を上回った。 寒暖の差が例年より大きかったことなどから、予想より鍋物需要がふるわず需要は伸び悩んだものの、関東地区での降雪による出荷乱れや寒暖差による成育遅れなどから 需給が引き締まり強含みで推移した。
	2.予測 R6年3月	○ 3月は、肉豚生産出荷予測では前年を下回る見込みであるものの、2月の成育遅れなどが解消することで出荷頭数が増加し需給が緩む可能性があることや、 月後半は学校給食の休止等により需給が緩むことが予想されるため、弱含みでの推移を見込む。

＜相場予想: 東京市場、税込み＞	1月実績	2月速報値	3月予測	4月予測
【上物】(前年比)	492円/kg(92.8%)	594円/kg(101.0%)	560円/kg(97.7%)	560円/kg(99.6%)

備考

国内生産量の推移　(千頭:%)

暦年	国内と畜頭数	
	千頭	前年比
R2年	16,686	102.2
R3年	16,836	100.9
R4年	16,577	98.5
R5年	16,407	99.0
R5年　10月	1,437	103.3
R5年　11月	1,483	100.0
R5年　12月	1,462	99.9
R6年　1月	1,414	102.2

農水省出荷予測　(千頭:%)

暦年	出荷予測	
	頭数	前年比
R6年　3月	1,437	98
R6年　4月	1,409	106
R6年　5月	1,330	97
R6年　6月	1,307	98
R6年　7月	1,297	104

輸入量の推移　(ﾄﾝ・%)　財務省:通関実績

暦年	輸入数量		チルド数量	
	ﾄﾝ	前年比	ﾄﾝ	前年比
R2年	891,807	93.0	416,334	102.2
R3年	903,455	101.3	420,361	101.0
R4年	977,158	108.3	403,854	96.3
R5年	919,713	94.2	393,416	99.1
R5年 10月	70,198	92.6	33,509	118.8
R5年 11月	74,885	85.1	35,700	84.6
R5年 12月	67,750	98.3	30,873	115.9
R6年 1月	72,098	96.2	34,661	100.3

家計消費量　(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り			
	数量	前年比	金額	前年比
R2年	22,973	108.5	32,861	110.9
R3年	22,559	98.2	31,892	97.1
R4年	22,297	98.8	32,487	101.9
R5年	22,031	98.8	33,553	103.4
R5年　10月	1,850	95.5	2,862	99.9
R5年　11月	1,848	101.4	2,860	103.6
R5年　12月	2,021	101.3	3,060	100.4
R6年　1月	1,823	97.4	2,866	98.0

加工品仕向量　(千ﾄﾝ・%)

暦年	加工品仕向量	
	千ﾄﾝ	前年比
R2年	376.7	101.5
R3年	379.4	100.6
R4年	368.5	97.4
R5年	336.4	91.5
R5年　10月	28.3	90.6
R5年　11月	30.9	91.2
R5年　12月	27.6	82.9
R6年　1月	24.5	87.1

市況の推移(東京市場)(円/kg・%)

暦年	豚枝肉「上物」(税込み)	
	円／kg	前年比
R2年	561	106.9
R3年	546	97.3
R4年	582	107.0
R5年	609	104.9
R5年11月	519	91.9
R5年12月	552	97.7
R6年1月	492	92.8
R6年2月速報値	594	101.0